

平成30年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容		①評価概要	評価	②改善事項	会議開催回数	③今年度の活動内容		④自己点検及び改善すべき事項	評価者	⑤評価概要	⑥評価	⑦改善事項
				H29	H29					H30	H30					
1	主管会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		17	定例会議15回、臨時会議を2回開催し、適切に審議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A		
2	運営会議	校長	総務・企画係	適切に協議され実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	活動状況は良好である。	A		19	定例会議15回、臨時会議を4回開催し、適切に協議され実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。全教職員に会議資料を共有することができ、共通理解を得ることができた。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	清水教授	良好である。	A		
3	スパイラルアップ会議	校長	総務・企画係	適切に審議され実施できた。	特になし	活動状況は良好である。	A		1	適切に審議され実施できた。	特になし	所教授	活動状況は良好である。	A		
4	教務会議	教務主事	教務係	入学志願者数の確保、Webシラバスの導入、MCC対応に向けた教育課程表の変更、帰国子女特別選抜実施方法等に対し検討を行った。2年連続原級留置となった場合、退学とする規定を復活させた。一時的に退学者は増える可能性はあるが、長期的には対象学生に緊張感を持たせることが有効と考えられる。また、1〜3年の原級留置の学生に対して評価8以上の科目の履修を不要とし、不得意科目の克服に時間を充てられるように内規の一部改正を行った。	積立金の廃止に伴う研修旅行の見直しや退学者や原級留置者の減少に向けた取り組みについては検討を継続していく必要がある。	4)にある退学者・原級留置者数の減少に向けた具体的な対策の検討と実施が必要である懸念がある。特に2年連続留置年度の退学者が復活するため、高専の高度化・国際化とMCC対応などで、学修内容がレベルアップすると、その対策は直ちに実施すべきであると懸念する。	A		34	Webシラバスの運用やMCCに対応したカリキュラムの検討、Office365を活用した授業時間割の作成、オープンキャンパスや中学校訪問など入学志願者の確保に向けた広報活動等を中心に行った。仮進級学生の単位取得状況を担任にも提供し情報の共有を図るとともに、該当学生に対する指導や進級試験に関する申合せを決定した。また、平成31年度から教職員用と保護者用の二種類の年間行事予定表を作成し、学外HPには保護者用を掲載する方向で進めている。	吉村教授	学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進展状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	C		・学生情報統合システムKOREDAの本格運用に向けての進展状況、今後の学内対応等について学内周知が望まれる。	
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	授業参観週間(前後期1週間)の設置、FD講演会2回(前期テーマ:「授業を設計・構成する力-教科教育の知見を踏まえて-」、後期テーマ:「アクティブ・ラーニングの4つの視点」)を実施した。講演会資料で公開可能なものに対しては、教務掲示板上で提供した。	結果として、授業参観やFD講演会への教員の参加率は前年度とほぼ同様であり、改善を継続していく必要があるが、授業参観前に教育APで実施された学生アンケート結果を配布、周知するなど、活動の可視化やスパイラルアップへの流れはできつつある。	取組の更なる可視化で、実のある活動となることが期待できる。	A		各2	授業参観週間(前後期1週間)の設置、FD講演会2回(前期テーマ:「MCCにおける実験・実習能力および分野横断能力の評価方法について」、後期テーマ:「新たな教育方法と授業改善への継続的な取り組み」)を実施した。前期授業参観終了後に授業運営等に関する討議が各学科で実施され、その報告も全学科から提出済みである。	吉村教授	活動は良好である	A		特になし	
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特別変更届への対応等を実施した。	活動状況は良好である。次年度については、これまでの活動を継続するとともに、新たに大学との共同教育について検討する予定である。	前回課題として示された特別研究1英語発表に関する実績が示されており、活動状況は良好である。	A		12	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、JABEE継続の検討、特別変更届への対応、特別研究1英語発表等を実施した。検討予定であった大学との共同教育(連携教育プログラム)についても、豊橋技術科学大学との打ち合わせを重ね、入学者募集要項案を作成した。	山本学生主事	活動状況は良好である	A			
6	学生会議	学生主事	学生係	予定された学生会行事の実施に加え、各方面から提起された案件に審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度33件から29年度7件と大幅減。交通事故は28年度35件から28件と微減。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となり、特に紛失は学生会議による4時間の1号館3階巡回や伊吹出入口に防犯カメラ設置等の対応を実施した。	会議は良好に行われている。学生指導の基準・方法に関しては概ね学内の合意を得て見直しを済ませた。今後は主に教務会議と連携して、単位追認試験で不正行為が発生した事故であった。交通事故は28年度35件から29年度28件、30年度も28件と同数となった。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となったが、30年度は8件と減少できた。防犯や盗難への抑止となるよう、伊吹出入口防犯カメラ設置に続き、第1体育館入口、6号館女子トイレ付近にもカメラの設置をした。	活動状況は良好である。交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続した検討が期待される。	A		31	予定された学生会行事の実施や、各種活躍した学生への表彰を実施。学生の懲戒に関する事案について審議のうえ対応した。懲戒件数は28年度33件から29年度7件30年度は4件(5人)と減少傾向であった。交通事故は28年度35件から29年度28件、30年度も28件と同数となった。紛失盗難が28年度5件から29年度16件と大幅増となったが、30年度は8件と減少できた。防犯や盗難への抑止となるよう、伊吹出入口防犯カメラ設置に続き、第1体育館入口、6号館女子トイレ付近にもカメラの設置をした。	麻草前事務主事	活動状況は良好である。交通安全指導のさらなる充実、課外活動支援と教員の業務負担軽減についての継続した検討が期待される。	A			
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を3名、停寮指導を11名に対して行なった。男子1年生と指導生との関わり方を見直し。昨年度に続き温水洗浄器付便座設置箇所を増やし、全寮棟の全館に1つは温水洗浄器付便座が設置されるに至った。夏季休業期間に男子浴室内装改修工事を行った。試行ではあるが、学生からの要望が強かったウォーターサーバーを全話室に設置した。	男子1年生と指導生との関わり方を見直した結果が、入寮後早い時期(前期間)での退寮者が出なかった。飲酒に関わる指導件数が多かったため、それを防ぐ指導が必要である。寮生数が増加の傾向にあり、定員超過時の対応や受入数の拡大に向けての検討が必要である。	活動状況は良好である。	A		29	寮務会議、寮生会行事は予定通り行われた。退寮指導を4名、停寮指導を15名に対して行なった。女子寮の居室配置の見直し(同学生での相部屋)、アンケート調査実施など、女子寮快活性の向上を図った。温水洗浄器付便座は全洋式便座に設置され、試行であったウォーターサーバーも本設置となり、男子寮乾燥機使用も無視した。インフルエンザ予防接種を学内で実施し、利用者は前年比約1.5倍となった。定員超過が予想された女子寮において、退寮対象者への早めの情報提供に努めた。また、寮務会議委員の業務負担軽減のため、寮巡回を朝のみとした。	山本学生主事	活動状況は良好である	A		飲酒、喫煙に関する指導件数に改善が見られず、更なる指導上の工夫が必要である。	
8	将来計画委員会	教務主事	総務・企画係	計画通り開催され、外部評価の実施方法、参与会との関連付け等を中心に検討を行った。	機構本部から教員定員削減検討の指示があるなど、中長期的な展望が難しい状況にある。	展望が困難な状況において比較的、活動状況は良好である。	A		4	計画通り開催され、外部評価の実施方法、会議・委員会等における教員の負担軽減等についての検討が行われた。具体的には専攻科運営規程をはじめとする関連規程において、一般科目からの選出委員を2名から1名に変更することが承認された。	麻草前事務主事	活動状況は良好である。	A			
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数5回) ●第1回①「成専高専キャンパスマスタープラン2017」の策定について②平成29年度実施事業(施設整備費補助金事業、営繕事業)について ●第2回①平成28年度決算について②平成28年度校長裁量経費の決算について③平成29年度予算配分(案)について ●第3回①平成30年度予算配分方針(案)等について②平成30年度概算要求事業について③平成30年度賞給要求事業について ●第4回①平成30年度予算配分審査(要求ヒアリング)②平成30年度施設整備費補助金事業について③平成31年度施設整備費補助金の概算要求事業について ●第5回①平成30年度予算配分について②平成30年度 教員室等の継続使用(不動産使用許可)及び冷暖房機器の継続使用について③設備整備マスタープランの策定について	適切に審議され、実施された。	十分な審議が行われ、各事業が実施された。	A		4	財務・施設委員会の主な活動内容(開催回数4回) ●第1回①平成29年度決算について②平成29年度校長裁量経費の決算について③平成30年度予算配分(案)について④平成31年度概算要求事業(施設整備費関係)について⑤平成30年度実施事業(施設整備費補助金事業・営繕事業)について⑥建築学科棟改修工事期間中の居室等について⑦その他(高専教育充実設備費について) ●第2回①平成31年度予算配分方針(案)等について②平成30年度施設整備費補助金事業・営繕事業進捗状況及び平成30年度追加予算事業について③その他(①平成30年度高専と大学の共同教育プログラムの構築支援の採択結果について②暖房期間について) ●第3回①平成31年度予算配分審査(要求ヒアリング)②平成31年度施設整備費補助金実施予定事業について③2020年度施設整備費概算要求事業について ●第4回①平成31年度予算配分について②設備整備マスタープランの策定について③2019年度教員室等の継続使用(不動産使用許可)及び冷暖房機器の継続使用について	麻草前事務主事	適切に審議され、実施された。	A		適切に審議され、各事業が実施された。	
10	入試運営委員会	教務主事	教務係	臨時会議を1回開催したものの、ほぼ当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科入試方法(TOEICスコア換算方法など)の変更、帰国子女特別選抜の実施方法、学外検査場(名古屋会場)の廃止等である。	従来から実施の推薦選抜、学力選抜に加え、帰国子女特別選抜の実施要項が確立された。	新たな取り組みとして、帰国子女特別選抜を導入するなど活動状況は良好である。	A		5	当初の計画通り、開催された。主な審議事項は、専攻科学力検査による選抜方法の変更である。具体的には、判定項目として従来から実施している数学、英語に加え、高専4年次に相当する専門科目の評価を反映した調査書を追加した。また、英語点数の換算方法として従来から採用しているTOEICスコアに加え、TOEFL iBTスコアの選択も可能にした。以上の変更は2020年度専攻科入試から適用される。	麻草前事務主事	専攻科学力選抜方法について、よりバランスの取れた選抜が実施できる見通しであるなど、活動状況は良好である。	A			
11	広報委員会	学生主事	総務・企画係	前後期2回の対面会議に加え、必要が生じた際にメール審議形式で意見を集約したうえで対応した。	教育AP事業、グローバル高専拠点事業、デサコン開催など、本校が関連する各種事業を中心に、HP並びに冊子を利用しての広報活動を展開した。HP更新や掲載内容に関する各種意見が寄せられるたび、全学科・全事務部局から構成される委員にメール審議形式で情報共有し、合理的な対応を実施している。	対面会議に加え適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。	A		2	H30年度も前年度同様、前後期2回の対面会議を実施した。確認が実施されており、委員として広報活動が展開されている。今後は、学校全体として、本校の強みおよび弱みの補強策などについて、今年度より内容として、トップページに「KOSEN(高専)4.0(ニアティブ)事業」教育AP事業・グローバル高専拠点事業・についてナーを開設し、各事業についての情報を発信した。	吉村教授	2回の対面会議に加え適宜メール審議が行われ、活動状況は良好である。また、昨年指摘された改善事項については、強みがHP等で情報発信された。	A			
12	人事委員会	校長	総務・企画係	10回の委員会を開催し適切に審議され実施された。	適切に審議され、実施した。	適切に実施されている。	A		11	採用・昇任等の審議を実施した。	適切に審議され、実施した。	所教授	適切に実施されている。	A		
13	安全衛生委員会	校長	総務・企画係 契約係 施設係	年間安全衛生活動計画により、次の事項について12回審議した。 ・安全衛生管理体制の確立 ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生巡視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会)・健康増進の実施、安全衛生教育の実施(教団法講習会等) ・設備・備品の転倒防止対策 ・ストレスチェックの実施(外部委託) 【防災対策関係】:防災訓練、防災備蓄備品関係について1回審議した。	適切に審議され実施した。	適切に実施されている。	A		12	安全衛生 12 防災関係 1 毎月の衛生に関する事項と、9月に防災に関する次の事項を審議した。 ・職場の安全衛生と作業環境の確保(職場の安全・衛生巡視等) ・健康管理(熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起) ・健康増進の実施、安全衛生教育の実施(教団法講習会等) ・防災備品の充実 ・ストレスチェックの実施(外部委託)	所教授	適切に審議され、実施した。	A			

平成30年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	総務・企画係	①H29年度年度計画の達成状況を点検評価(中期計画WG) ②H29年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定(学習評価フォローアップWG) ③H29年度授業アンケート結果の分析(学習評価フォローアップWG) ④H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査(学習評価フォローアップWG)	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①H30年度年度計画の達成状況を点検評価(中期計画WG) ②H30年度学習評価フォローアップ点検の基本方針を策定(学習評価フォローアップWG) ③H30年度授業アンケート結果の分析(学習評価フォローアップWG) ④H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度を調査(学習評価フォローアップWG) ⑤点検評価・フォローアップ委員会の学内向け掲示板のレイアウトを刷新した。 http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/followup/followup.html	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-1 中期計画WG	委員長	総務・企画係	①親委員会の①で実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①親委員会である「点検評価・フォローアップ委員会」の①に示すように実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	総務・企画係	①スバイラルアップ会議における教育点検システム(概略図)の確認を行った。 ②H26~28年度の学校独自の計画及び実施報告をまとめ、外部評価としての評価を参与会に依頼した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	3	①「内部質保証システム構築」の観点から岐阜高専独自の自己点検・評価規程(案)及び同基準と項目についての内規(案)を策定し、主管会議・運営会議に提案し成案された。 http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-2.pdf http://www.cc.gifu-u.ac.jp/gakunaiyou/shomu/2-21-3.pdf ②H29・H30年度の参与会による外部評価の方法(実施は平成31年度5月)を策定した。主管会議・運営会議に提案し了解された。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	総務・企画係	①親委員会の②で策定した方針を基に、新しい実施要領を定め、WGで具体的な作業を実施した。 ②H29年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会で④(H29年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査)を実施した。 ④5年ごとに行われる就職先アンケート(本科・専攻科)の取りまとめをWGで実施した。	適切に実施された。	活動は良好である	A	特になし	4	①親委員会である「点検評価・フォローアップ委員会」の②で策定した方針に基づきWGで具体的な作業を実施した。 ②H30年度の授業アンケートの取りまとめをWGで実施した。 ③親委員会である「点検評価・フォローアップ委員会」の④に示す「H30年度卒業生・修了生の教育目標に関する満足度・達成度調査」を実施した。	特になし	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
15	国際交流室会議	山本	教務係	■JASSO支援を基にした短期留学生(受入)を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシア工科大学から2名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タケント校)から2名、そして今年度から新たに中部北工科大学から2名、ハイ建設大学から2名、ハノイ工科大学短期部から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生(派遣)を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に3名、トリノ工科大学(タケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をこなした。資金拠出は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会寄附基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内チューター等の懇談会、校長との懇談会など、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■海外大学と在籍する長期留学生を対象とした東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主催)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・ハリブリックポリテクニクの学部生4名を6か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にUTIRU-Aの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■海外大学との学術交流の一環としてESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction, Engineering Education)に関する共同セミナーを開催した。交流協定大学を含めて5ヶ国、7大学(計17名)の参加があり、本校、福井高専、明石高専などからの口頭発表、ポスター展示があった。交流協定締結以来、毎年開催しているものであるが、今年度はバンドン工科大学以外の協定校に拡大して実施し学術交流の深化に大きく貢献した。	■教職員の業務のバランス調整 国際交流室には専任教員が配置されていないことから、専任教員を置くなどの業務とのバランス調整が必要である。また、担当事務が学生課か総務課なのかははっきりしていない業務があり、調整に時間がかかり非効率であり改善を要する。 ■本科学生を対象とした語学研修および本校学生と短期留学生との交流 JASSO(日本学生支援機構)支援による短期留学生との交流は、研究室、学科、学生寮などで引き続き実施する。多くの学生が携われるような仕組みを考案、「留学生サポーター」を育成し実施した。国際連携実習の時間数を増やして活動することは難しく、単位化には結びつかなかった。次年度の課題としたい。 ■海外インターンシップ、短期留学派遣 海外インターンシップ、短期留学は、英国TYK Limited、バンドン工科大学(TB)、マレーシア工科大学(UTM)、ハノーバ大学、アイオワ大学、トリノ工科大学(タケント校)、中国編織ハイテックに加え、ベトナムの提携校、およびIUTを加えて募集をかけている。継続的な取組みとするためには同人数の双向交流が望まれる。そのためにJASSOによる派遣・受入の支援および本校の支援を継続させる必要がある。ビタテ留学JAPANプログラムも活用しているが、まだ採択に当たっていないため、活用するようさらなる働きかけをしたい。 ■海外遠航時の危機管理 学生のみならず教職員の海外遠航時の危機管理を目的に本年度、民間の危機管理会社との契約を行い、不測の事態に対応できるように制度並びに組織整備を行った。次年度以降これらを継続するとともに、短期留学では必ず加入するよう徹底させる。 ■海外大学との学術交流 交流協定を締結した大学との双向交流、特にマレーシア工科大学における研究者間での交流に努める。	適切に実施されている。ただし、④にあるとおり他の業務との、また、他の教員とのバランス調整が必要な時期に来ている懸念がある。	A	高専機構による重点項目である。ただし、過度な負担、もしくはこの事への負担が、本来の本校学生への支援を妨げるものとならない様、担当事務職員の業務分担を含めて改善することが望まれる。	9	■JASSO支援を基にした短期留学生(受入)を実施した。アイオワ大学から2名、ハノーバ大学から2名、マレーシア工科大学から2名、バンドン工科大学から2名、トリノ工科大学(タケント校)から2名、ハノイ建設大学から2名の短期留学生を受入れ、研究室での実習を行った。 ■JASSO支援を基にした短期留学生(派遣)を実施した。アイオワ大学に2名、ハノーバ大学に2名、マレーシア工科大学に3名、バンドン工科大学に3名、トリノ工科大学(タケント校)に2名、TYK Limitedに2名を派遣し3週間の実習をこなした。資金拠出は外部資金JASSOの他、教育後援会の国際交流基金、同窓会寄附基金からの支援を受けた。 ■長期外国人留学生長期留学生を対象とした、学内チューター等の懇談会、校長との懇談会など、学外(地域との交流会、現地見学旅行、ホームステイなど)の各種イベントを実施した。 ■高専に在籍する長期外国人留学生を対象の東海地区外国人留学生交流会(豊田高専主催)として豊田市近郊の文化体験・工場見学を行い、3名の学生が参加した。 ■本校学生の希望者を対象としたビタテ留学ジャパン制度を利用した留学方法に関する講演会を実施した。 ■海外大学との長期学生受入として、電気工学科教員の研究室にシンガポール・ハリブリックポリテクニクの学部生4名を6か月の長期にわたって受け入れ、研究指導を行った。また、電気工学科教員の研究室にUTIRU-Aの学生2名を3ヶ月にわたって受け入れ、研究指導を行った。 ■昨年実施した共同セミナー-ESDPR&EE: Environmental Sustainability and Disaster Prevention and Reduction, Engineering Education)の第二回を開催した。交流協定大学から計12名の参加があった。また、本校専攻科生3名の口頭発表、本校専攻科生2年生全員のポスター発表も行われた。	特になし	久保田前学生主事	活動状況は良好である。	A	特になし
16	人権委員会	事務部長	総務・企画係	ハラスメント対策としてDVDを購入し、教員会議の際に視聴した。また、新任教員研修時に視聴することとしている。外部相談窓口として、顧問弁護士と継続契約した。「学生支援に関する講演会」を、学生相談室と共同で開催した。	ハラスメントの可視化について、具体的な検討をする必要がある。	現在はハラスメントが表立って問題となっていないとの認識は無いが、④でハラスメントの可視化について具体的な検討をする必要があることなので、なにがしかの懸念があるのではと判断しますが、表立った情報からは特に問題ありません。	A	もし、ハラスメントの可視化について、なにがしかの懸念があるのであれば、改善を期待します。	2	特に問題はあがってきていない。	清水教授	適切に審議され、実施した。	A	活動状況は良好である。	
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)情報セキュリティ推進委員会の活動内容を確認した。 2)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	活動は良好である。	適切に実施されている。	A	ネットワーク認証関係でのトラブルが長引いています。セキュリティ関係には最大限の活動の継続をお願いします。	0	1)情報セキュリティトップセミナーの案内を周知した。	適切に実施されている。なお、毎年度末に開催していた情報セキュリティ推進委員会の活動報告を、翌年度の年度初めに移行したため、今年度は会議を開催していない。	和田教務主事	情報セキュリティ管理委員会は、一般的な管理業務であり、主管会議、運営会議、メディア委員会などを通じて、情報セキュリティ推進委員会の活動状況、情報セキュリティ監査等への対応が適切に把握されている。	A	引き続き、情報セキュリティ推進委員会の活動を把握し、情報セキュリティ強化を進めていただきたい。
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learning教育(全教職員が受講) 1-2)情報セキュリティに関するe-Learning教育(全教職員が受講) 2)情報セキュリティインシデントへの対応 4/13に事務職員がマルウェアに感染するインシデントが発生した。機構本部CSIRTや文科省への報告を適切に処理した。 3)情報セキュリティ人材育成事業について 3-1)学生向け情報セキュリティ講演会の実施 3-2)専攻科棟教室改修によるAI対応化 3-3)LMSによる情報セキュリティコンテンツ展開のための準備 3-4)高専キャリアパスによる情報セキュリティ演習の実施 3-5)プロット拠点校(石川高専)開催の学生向け情報セキュリティイベントへの学生派遣 3-6)情報セキュリティに関する研修への教職員の派遣	IT資産管理調査については、機構本部から実施指示がなかったため、今年度は実施していない。高専全体で行っているIT資産管理システムが更新されたため、今後各教職員管理PCのIT資産管理ソフトウェアの入れ替えを予定している。	適切に実施されている。	IT資産管理調査はシステムにより自動的に実施されると教職員の負担が減って良いと思います。	5	1)教職員向け情報セキュリティ教育の実施 1-1)情報セキュリティに関するe-Learning教育(ほぼ全教職員が受講) 1-2)情報セキュリティ(講習会)の実施(1/31) 1-3)高専機構による廣域的型メール訓練 2)情報セキュリティ監査について 監査において指摘が2項目、注意が10項目あった。次年度対応を協議した。 3)情報セキュリティインシデントへの対応 11/21に本校学生による情報セキュリティインシデントが発生した。機構本部CSIRTへの報告を適切に処理した。 4)情報IT資産管理システムによるIT資産管理調査の実施 5)情報セキュリティ人材育成事業について 年度当初に各専門学科で情報セキュリティ教育実施計画を策定し、計画に基づき実施した。	適切に実施されている。	和田教務主事	情報セキュリティ教育、情報セキュリティ監査、情報セキュリティインシデント、IT資産管理等への対応が適切に実施されている。	A	昨年度、情報セキュリティ監査に指摘された事項を改善していただきたい。また、4月上旬に発生した個人情報に関するコミュニケーションについて、情報セキュリティ強化の観点から、留意点を全教職員に周知していただきたい。	
19	テクノセンター運営委員会	研究主事	研究協力係	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研究、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、全国あるいは第3ブロック内における本校の強みと弱みを明確にし、講演会等の実施、各種財団、研究助成の募集情報を知れた(科研究:26件、共同研究:23件、受託研究:3件(NEDOを含む)、寄附金:31件)。 ・学校として取り組む大型プロジェクト(教育AP、KOSEN4.0イニシアティブなど)について、関係機関(岐阜県・岐阜市・本巣市等)と調整して実施した。 ・地域連携協会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト(成果報告や研究シーズ紹介など)や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成は、入門:5、基礎:6、アドバンス:6の合計17講座が開講され、有料講座は、延べ3072名が受講した。 ■技術開発部門、良好である。 ・外部組織との連携(岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など) ・IAMASとの連携(6ヶ年連続の共同セミナーなど) ・高専連携クラウド推進室(オープンCOE)ものづくりミニワーキング)を実施した。 ■技術開発部門、良好である。 ・インターンシップ関連(本科+専攻科:国内199名、海外23名) ・文科省へのインターンシップの届出制度申請予定 ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習(単位認定者:本科70名、専攻科12名) ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動(43件)	活動は良好である。 ■テクノセンター全般、良好である。 ■技術開発部門、良好である。 外部会議参加に関しては、必要に応じてODに代理出席を依頼し、情報収集を行った。 ■技術教育部門、良好である。 特に、小中学生を対象とした多くの講座依頼があり、近隣の小学校や中学校向けに数多くの教育活動を実施している。	活動は良好である	特になし	活動は良好である	8	■テクノセンター全般 ・外部資金の獲得等について、科研究、共同研究、受託研究、寄附金などの情報を提供し、過去最高額(総額1.1億円)に達した(第三ブロック)の目標。 ・学校として取り組む大型プロジェクト(教育AP、KOSEN4.0イニシアティブなど)について、関係機関(岐阜県・岐阜市・本巣市等)と調整して実施した。 ・地域連携協会の運営委員会や総会などを通じて、研究プロジェクト(成果報告や研究シーズ紹介など)や人材育成事業を推進した。 ・シニアOBによる中核人材育成は、入門:5、基礎:6、アドバンス:6の合計17講座が開講され、有料講座は、延べ約3500名が受講した。2019年度は中核人材育成事業開始から10年目を迎える。 ■技術開発部門 ・外部組織との連携(岐阜県商工労働部、岐阜県工業会など) ・IAMASとの連携(6ヶ年連続の共同セミナーなど) ・高専連携クラウド推進室(2018年度で廃止されるが、オープンCOEなどの地域連携活動は継続・推進した。 ■技術教育部門 ・インターンシップ関連(本科+専攻科:国内201名、海外49名) ・ものづくり/科学技術リテラシー教育実習(単位認定者:本科49名、専攻科4名)(昨年度:計82名) ・自治体や各種団体から依頼されたイベントやリテラシー活動	活動は良好である。 ■テクノセンター全般、良好である。 KOSEN4.0イニシアティブ事業で掲げた評価指標、技術相談件数30以上などを達成し、第1期に向けて本校の強みをさらに伸ばす工夫や取組をする必要がある。 ■技術開発部門、良好である。 ■技術教育部門、良好である。 ・一昨年度の指摘事項、学校として取り組む事業については、テクノセンター委員会等で検討し、重要性や継続性に応じて取捨選択した。重要な案件については、既存の部門や推進室が中心となってプロジェクト方式で進めた。これらの教育・研究・地域連携活動のバランスについては、引き続き優先順位などを考慮しながら、学校全体や学科、教員などとの関連性を配慮してテクノセンターとして調整する。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし

平成30年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
19-1	高専連携クラウド推進室	柴田	研究協力係	大規模解析システムの活用技術を蓄積は行うことができたが、学内全体を対象とした利用講習会の準備として、今年度は研究室単位および授業単位での活用推進に方針を変更して活動を行った。 ・建築学科1研究室+機械工学科1研究室での卒業研究や特別研究での有効利用ができた。 ・専攻科先端融合開発専攻での実習科目において、本システムを活用した演習を行った。 ・航空宇宙研究グループとしては、特命教員2名と連携して、計算機活用支援システムを開発した。 (室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない) ・航空宇宙研究グループの学科横断的な活動としては、数値解析新技術に対して特命教員と連携し、機械工学科と建築学科の研究開発協力や、電気情報工学科の卒業研究支援などを実現した。	数値解析を活用した研究開発を支援するために、来年度は学内全体を対象とした利用講習会を年2回程度は開催する。このための準備会議を2回実施する。 利用技術をまとめた情報発信用のウェブページを充実させることにより、学生や初心者の利用を支援する。	・目標であった「大規模解析システムの利用講習会」年4回の開催が未開催であるにもかかわらず、「室員とはメールでの情報交換で活動を進め会議は開催していない」との報告で推進室会議が一度も開催されておらず、室員間の情報共有が十分に行われているのか懸念がある。	C	・室員間の情報共有が十分にはか、「大規模解析システムの利用講習会」を目標2回程度の開催が望まれる。	クラウド推進室講習会準備会議2 イニシャル連携講習会準備会議2	教職員および学生を対象に、大規模解析システムの利用を促進するために、以下の活動を行う。 1: 専攻科の特別実験において、システムを活用した演習を行う。 数値流体工学の大規模解析 2: 研究開発の活用を促進するために、システム利用者講習会を行う。 高度解析アプリケーションの活用講座2回 大規模並列数値解析の基礎演習2回 今年度は、イニシアティブの外部人材育成の活動と連携して、人工知能に関する基礎講座を開催する。 3: ニューラルネットワークの基礎講座2回	左の活動内容においては、以下の通り実施した。 1: 10/10、17、24、31の4回の授業において、専攻科学生6グループが、システムを活用した大規模流体解析演習を行った。 2: 大規模解析システムの利用講習会を、以下の通り実施した。 前編分 7/31 6名参加 8/7 4名参加 後編分 11/13 11名参加 11/27 9名参加 3: ニューラルネットワークの基礎演習を、以下の通り実施した。 12/11 11名参加 1/12 12名参加 以上より、昨年度の改善事項に対応できた。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	H31.3.31をもって高専連携クラウド推進室は廃止された。
19-2	科学技術リテラシー教育推進室	山田英	技術室	本科の募集テーマ数11、実施テーマ数9、専攻科テーマ数4(本科と合同)にて実施された。また、本科受講者数79名のうち単位認定者数70名、専攻科受講者数12名のうち単位認定者数12名であった。昨年度に引き続き、単位認定書類の様式や提出方法の整備を図り、教員・学生に負担がないようにした。また、報告会は口頭発表からポスター発表に変更し、発表の時間的な制約がないようにした。また、ポスター前で交代で発表できるようにしたため、多数の学生が参加しているグループでもプレゼンテーションが十分行えるようになった。	リテラシー教育実習に参加する学生は増えてきており、活動は良好である。一方で、担当する教員はほぼ同じであるため、今後はテーマを提案する教員が増えることが望ましい。	活動は良好である	A	特になし	1	すべての学科からリテラシーのテーマが提案され、募集テーマ数は11であった。そのうち本科に8テーマ49名、専攻科テーマ数2(本科と合同)4人の応募があった。そして、本科15名に1単位、34名に2単位、専攻科4名に2単位を認定した。 ・5月22日に受講者に対しガイダンスを行った。 ・ぎふサイエンスフェスティバルには岐阜高専として7ブース出展し、活動の結果を発表した。 ・1月30日に成果発表会を行い、テーマごとにポスター発表をした。	活動は良好である。 応募者数は昨年度に比べ減少したものの、テーマ数は昨年度と同様であり、また全学科としての取り組みが行われている。 応募学生を増やすためには低学年へのリテラシー活動の周知と複数年にわたる活動の継続が必要である。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19-3	若点連携推進室	研究主事	総務・企画係	同窓会若点会設立50周年記念式典としセッションが行われた(9/9)。 同窓会若点会設立50周年記念実行委員会(25名)が組織された。式典に先立ち、予算・実施計画等を若点会役員に諮りながら進められた。チラシ作成や配布、報道機関への取材・広報、当日のバネル展示の準備など、卒業生が中心となり実施した。 ・式典終了後は、同窓会若点会設立50周年記念事業として、卒業生・教員等が講師となる公開講座を後期に計5回実施した。この事業は、次年度も引き継がれる予定である。 さらに、以前から実施している中核人材育成塾は、今年度、入門・5、基礎・6、アドバンス・6の合計17講座が開講され、卒業生が講師として参画している。今年度、有料開講に延べ3072名が受講し、3000名を超えた。	活動は良好である。 ・若点会設立50年を経過し、世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実施する必要がある。	活動は良好である	A	特になし	20 (メール会議を含む)	テクノセンターの若点連携推進室は、全学同窓会「若点会」および中核人材育成塾の「若点連携事業室」、建設技術士有志会などと連携して事業を推進している。 1)若点会設立50周年記念事業として開始された公開講座は、卒業生・教員等が講師となし3回実施した(岐阜大学教授、大野町長、山梨大学教授)。 2)2019年度で10年目を迎える「中核人材育成塾」は、入門・5、基礎・6、アドバンス・6の合計17講座が開講され、企業経験をもつコアOBが講師として参画している。今年度で有料開講に延べ約2500名に達した。 3)東海地域に在住する建設技術士有志会(約60名)と連携し、環境都市工学科の導入教育(1年生)、キャリア教育支援(4年生)などを実施し、国家資格・技術士1次試験合格者を表彰している。	活動は良好である。 ・若点会設立50年を経過し、世代間を繋ぐ人材活用について、各学科の同窓会組織と連携しながら、効果的に実施する必要がある。2019年度は建築学科が設立50周年を迎える。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19-4	知的財産委員会	研究主事	研究協力係	平成29年度の知財申請は、機構承継(3)、学校承継(個人帰属(1)となっている。学校承継(本校あるいは個人)が可能となり、特許出願に関しては、新規性などに加えて市場性、実用化の見通しなどがあることも重要である。企業との共同出願であれば承継されるものの、単独出願の場合は承継は困難である。	活動は発明等届が申請されてから対応している。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、申請者と知財委員会メンバーとの間で差異が出る場合があり、CDなどの意見を参考にして最終的な判断を行っている。	活動は良好である	A	特になし	9 (メール審議を含む)	平成30年度の知財申請は、企業との共同出願(承継)他に、特許を受ける権利の持ち分譲渡及び出願名義人変更手続きに係る同意書の提出、審査請求、外国出願などであった。 提出された発明等届、発明評価書に基づいて学内審査手続きを進めており、発明評価書の新規性、市場性、活用性などについては、CDや機構本部などの意見を参考にして判断を行っている。	活動は良好である。(新規+審査請求対応+外国出願など)	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
19-5	機器分析室運営委員会	羽淵	研究協力係	■(機器設備の管理に関する事項)機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。今年度はSEMの保守点検を行った。 ■(利用に関する事項)利用状況は前期449時間、後期873時間となった(集計はH28年度)	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度5年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習にも役立てた。	活動は良好である	A	特になし	1	■(機器設備の管理に関する事項) ・機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理している。今年度は、錠前取替、Arガスの交換、FT-IRの光源交換をおこなった。 ■(利用に関する事項) ・利用状況は前期488時間、後期657時間となった(集計はH29年度) ・専攻科の授業「材料分析工学」で分析室の機器を使用した実習を行い、学生の分析に関する学習に役立てた。	活動は良好である。 ・機器を導入して次年度6年が経過するため、メンテナンス経費を確保する必要がある。 ・本棟先生が抜けるので新しい委員を入れる検討をする。	久保田前学生主事	活動は良好である。	A	特になし
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	■図書館部門 1)利用者講習会の実施、2)ブックハンティングの実施 2)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 3)高専祭企画展、各種イベントの開催 4)iPad、ノートPC貸出(延べ計199台) 5)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 (1)第1学年情報処理センターガイダンスの実施 情報リテラシー教育の実施(1回)、セキュリティ講習会実施(2回) (2)校内LANシステム定例打ち合わせ(2回) (3)高専統一ネットワークの更新 (4)高専統一ネットワークに外れる部分の更新 (5)IT資産管理調査の実施 今年度は実施通知がなく未実施 (6)研修会等 (7)「情報処理教育・研究報告第45号」の発行(平成27年度より、紀要と同時収録により電子化) (8)無線LANの試験運用(4月より、全学生を対象に実施、600アカウント登録)	活動は良好である。 1)平成31年度の高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備 2)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 3)Office365の利用促進 4)演習室及び情報機器の管理と運用(AP事業終了後を踏まえた検討)	両部門で多様な取組がなされており、活動状況は良好である。	A	特になし	6	■図書館部門 1)利用者講習会の実施 2)ブックハンティングの実施 3)読書感想文、自由投稿文、図書だより表紙イラストのコンクール実施 4)高専祭企画展、各種イベントの開催 5)iPad、ノートPC貸出(延べ計128台) 6)図書館だより、紀要の編集・発行 ■情報処理センター部門 1)第1学年情報処理センターガイダンスの実施 2)高専統一ネットワークの運用 3)高専統一ネットワークに外れる部分の更新(web、メールサーバー) 4)IT資産管理調査の実施(AssetBase登録情報) 5)研修会等(高専フォーラム、IT人材育成、情報担当者研修ほか) 6)「情報処理教育・研究報告第46号」の発行(紀要と同時収録) 7)無線LANの試験運用(A科3、5年生対象)	活動は良好である。 1)利用者数はほぼ横ばいで推移した。今年度に引き続き、無線LANの受付窓口をずらす、コーナーの展示頻度を上げるなどの対策を行う。 2)効率的に図書検索ができるように、OPACの利用説明を実施する(今年度は2年生全員) 3)学生の電子ジャーナル利用促進を図る(今年度は5年生に簡易利用マニュアルを配付)。 ■情報処理センター部門 1)図書館棟改修に伴う対応(臨時図書館、サーバー室移動・演習室移動などの対応) 2)高専統一学情ネットワーク導入に向けた支援準備(本格運用:2020年度) 3)認証環境の整備とID管理のさらなる効率化 4)Office365の利用促進 5)演習室及び情報機器の管理と運用 (AP事業終了後を踏まえた検討)	熊崎前教務主事	活動状況は良好である。	A	特になし

平成30年度 会議・委員会・部門委員会の活動、評価等

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	前年度の活動内容 H29	前年度自己点検及び改善すべき事項 H29	①評価概要 H29	評価 H29	②改善事項 H29	会議開催回数 H30	③今年度の活動内容 H30	④自己点検及び改善すべき事項 H30	評価者	⑤評価概要 H30	⑥評価 H30	⑦改善事項 H30
20	IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1)高専統一ネットワークの更新について 1-1)導入業者との打合せの実施 1-2)実施計画の策定 2)高専統一ネットワークから外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 2-1)サーバ更新(案)の策定 2-2)仕様策定	活動は良好である。	各サーバ群の更新日程は遅れているが、外因によるものであり、本校の活動状況は概して良好である。	A		1	1)高専統一ネットワークの仕様から外れたサーバ群(Webサーバ・教職員メールサーバ・外部DNS)の更新について 高専統一ネットワークの認証サーバとの認証連携不具合への対策案を策定した。	活動は良好である。	熊崎前 教務主事	活動状況は良好である。	A	
20	アクティブラーニング推進WG	情報処理センター長	図書・情報係	各科の教務委員を通じて、Webシラバスの全科目導入が行われた。 アクティブラーニングに関するFDを実施した。	活動は良好である。	教育AP推進委員会との連携により、設備基盤の充実も図られ活動状況は良好である。	A		3	授業参観週間に合わせ、授業方向上のためのFD研修を実施した(実施回数:2回)。	活動は良好である。	熊崎前 教務主事	活動状況は良好である。	A	
21	学生相談室会議	上原	学生係	・自殺予防といじめ対策として、こころと体の健康調査(前期)と学校生活アンケート(後期)を実施し、LMS方式により集計作業を改訂した。 ・毎月1回の相談室会議にカウンセラーが参加し、相談室運営の協議と、気になる学生に関する情報交換会を実施した。 ・相談室(カウンセリング)、キャリア支援室(OB教員や相談室員による学習・進路)の利用案内、伊吹食堂と多目的室(休憩場所や勉強場所)の開放をポスターとホームページで周知した。 ・カウンセラー週5日待機によるカウンセリングを実施した。 ・OB教員や室員による進路・学習相談を実施した。 ・クレベリン検査(1、3年生のみ)を実施し、学生の自己理解と学級担任の学生指導に活用した。 ・相談室員のスキルアップと学生相談の情報収集として、障害学生支援や東海北陸地区高専、全国高専の各研修会に参加した。 ・教職員向けの学生支援の学内講演会を1回実施した。 ・問題を抱えた学生をカウンセラー、室員、学級担任および関係教員と連携し、チーム支援を実施した。また、外部機関(社会福祉協議会、就労支援)、校医(精神科医)とも連携した。	・適切に審議され、実施された。 ・問題を抱えた学生のチーム支援の強化を目指したい。	多様な施策がなされ、かつ取り組みの見える化も図られており活動状況は良好である。	A		11	・自殺予防、いじめ及びハラスメント対策として、前期に学生生活アンケートをLMS方式で実施し、学級担任と連携して学生のカウンセリングに繋げた。後期は、前期のアンケート結果を基に、更なる進路調査を行い、担任と連携してカウンセリングに繋げた。 ・後期から、相談室として学習サポートルームを開設し、主に数学と物理の補習授業に対応した。 ・相談室、キャリア支援室、学習サポートルームなどを、ポスター掲示やホームページ等により学生への周知に努めた。 ・カウンセラーを2名増員したことにより、月曜と水曜が2名体制となり、学生や教員の面談希望に素早く対応できた。 ・学級担任による学生指導の一助とするため、クレベリン検査を1、3年生に実施した。 ・教職員のFD研修として、教員会議開始前の20分程度、カウンセラーによる全体研修会を4回実施した。さらに、個別案件についても、各学科会議にカウンセラーを派遣し、個別研修会を延べ7回実施した。 ・1、2年生の特活で、メンタルヘルスと称して、全10クラスにカウンセラーを派遣し、学生参加型のワークショップを行った。	・適切に審議され、実施された。 ・今後増えると思われる合理的配慮を必要とする学生に対し、継続的なチーム支援の強化が求められる。 ・カウンセラー一問の支援方針に齟齬があり、相談室として対応に苦慮したが、次年度以降、カウンセラーには、カウンセリングの基本方針として、誓約書を提出させることで改善を図ることになった。	熊崎前 教務主事	良好である。	A	
22	教員会議	校長	総務・企画係	適切に報告等が実施できた。	会議資料の再掲はリマインドのため必要な部分もあるが、H30年度より資料をタブレットにするため、紙の削減が出来る。また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	年度最終の会議でタブレットを試行するなど、会議での進行の効率化、経費節減へ向け、活動は良好である。	A		8	定例会議7回、臨時会議を1回開催し、適切に報告等が実施できた。	H30年度より会議資料をサイボウズのファイル管理にアップロードし、タブレットにて閲覧する形態に変更したため、紙の削減ができ経費の節約が図れた。 また、口頭説明は簡略化するなどして、進行の効率化を図っている。	麻草前 事務主事	経費削減、進行の効率化への取り組みなど、活動状況は良好である。	A	
23	学級担任会議	教務主事	教務係	学生指導や定期試験の会場準備等について周知する場として、計画通り、開催された。専門学科間教員との意見交換、情報共有の場としても活用されている。	活動は良好である。		A		5	計画通り開催され、担任業務の周知や課題等について検討された。また、学科別で担任間の情報交換の場としても機能した。	教職員から学生への連絡および周知方法として学内メールを積極的に使用する試みがされる。少しでも、担任業務の負担軽減につながることを期待される。	清水教 授	良好である。	A	
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	例年通り3回の対面連絡会議を実施した。	29年度から各クラブの部費を本校で統一した通帳として財務管理の下に運用する措置を始め、大きな混乱をきたさずことごとく年度を終えることができた。	良好である。	A		3	例年通り3回のクラブ顧問連絡会議を実施した。30年度はクラブ活動で各種大会やコンテストでの活躍が自立的、経費負担が増えた。今後の対応として、32年度より学生会費を値上げする事を学生会総会で決定した。	昨年度に続き30年度も各クラブの預り金(部費)を本校で統一した通帳として財務管理の下に運用することができた。今後各種大会やコンテストへの出場学生への支援として、経費の使用について適正な使用について見直ししていく必要があるため、学生会や教育後援会と協力して検討していく予定である。また、教員の業務負担軽減が今後の課題となっており、改善できるよう検討したと考えている。	熊崎前 教務主事	活動状況は良好である。	A	
25	若勤奨学基金運用委員会	校長	総務・企画係	主管会議メンバー及び若勤奨学事務局教員により2月22日に委員会を開催し、表彰関係79件と助成関係39件を決定した。	活動は良好である。	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A		1	主管会議メンバー及び若勤奨学事務局教員により2月21日に委員会を開催し、表彰関係61件と助成関係34件を決定した。	活動は良好である。	麻草前 事務主事	表彰と助成が所定の手続きにより着実に実現され、活動状況は良好である。	A	
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	年度当初に2名の学生を対象に、異なる構成員による会議を各1回実施し、その後は必要に応じてメール審議形式で情報を共有し、日常の支援体制を維持した(メール送迎においては学生の個人名は明記していない)。なお個人情報保護の観点からHP上での議事録公開は行っていないが、必要に応じて関係者は閲覧可能である。	障がい児を有する学生への対応は年度を通じて実施し、該当学生は第2学年に進級する。歩行に支障のある学生は年度途中で本人の事情で休学し、30年度に第1学年に復学予定であり、再度必要な支援を実施する予定がある。	良好である。支援経緯等の記録内容を共有し、活用していることよい。	A		0	平成29年度入学生で、障がい児を有する学生への対応を引き続き実施した。該当学生は第2学年に問題なく進級し、クラブ活動(卓球部)も活発に活動している。改めて委員会を開催することはなく、障がい児に関する配慮事項の継ぎを担任や各教科担当者へ伝達する方法で継続的な支援をお願いを行なった。次年度第3学年に進級するため、既に新担任との面談を終えている。	障がい児を有する学生については、第2学年でも問題なく学校生活を送ることができた。第3学年に進級するが、改めて委員会を開催する必要はないと思われ、保護者からも同意を得ており、これまで同様配慮事項の引継ぎを行う事で継続して支援していくつもりである。	所教授	活動状況は良好である。	A	
27	男女共同参画推進室	鶴田	総務・企画係	・高専機構主催の「男女共同参画推進意識啓発講演会」が、Ginetにより配信され、推進室活動の一環として、室員も参加した。 ・本科第2学年の特活を利用して、男女間に関わる重大な人権問題の1つであるDVテーマに、推進室の意識啓発活動の一環として、室長兼学業主任が講演を行った。 ・今年度の「第3ブロック男女共同参画推進担当者協議会」を、本校が担当校として、3月15日にじゅうろくプラザで実施した。	・教員募集の際、ポジティブアクションを継続し、女性教員の各学科1名配置を早期に実現する必要がある。 ・女性教員が不安なく働ける職場環境を実現するため、推進室が主体となって、女性教員の不安解消に努める必要がある。	男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。	A		1 メール会議 (審議)4	1. 男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備の一環として、岐阜県が運営する人材バンクに加入登録するとともに、第3ブロック協議会で情報提供し、若勤奨学女子部に登録依頼を行った。 2. 本校および他高専の女子トイレ盗撮をおよびその対策の実現を把握するとともに、盗撮防止対策のための改修工事の追加予算要求を行った。 3. 全教員対象に「男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備」に関する意向調査を実施した。	アンケート調査結果より判明した男女共同参画の推進およびワークライフバランスを図るための環境整備に関する課題(制度周知が不徹底、制度改善)は把握できたので、それらの課題改善に向けた取り組み(情報周知方法の検討と整備、機構等への制度改善要求、OBとの連携等)が必要がある。また、女子トイレ、更衣室の盗撮防止に向けた取り組みが引き続き必要である。さらに、多様な立場の視点からの意見を踏まえて取り組むために、性別、年齢層に配慮した室員の構成(増員)が必要である。	麻草前 事務主事	アンケート調査の実施など、男女共同参画推進に向けた各種の取組が行われており、活動は良好である。今後、多様な立場の委員が構成されることを期待される。	A	
28	教育AP推進室	研究主事	総務課長補佐	主な活動内容は以下のようなものである。 ・本校のALとFDの実状と展望(ICT活用教育のスパイラルアップ、ログ解析結果とLMSの活用状況) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチャリ課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、3月に公開報告会が開催され、本校の事例紹介のみではなく、先進事例の招待講演、ポスター発表等が行われた。	活動は良好である。 AP事業4年目の成果として、ALの実践と学修成果の可視化についての外部意見を反映させ、全国高専フォーラム2018などを活用して、次年度以降の選定取組をさらに充実・発展させる必要がある。	活動状況は良好である。	A		9	主な活動内容は、昨年度に引き続いて以下のようなものである。 ・本校のALとFDの実状と展望(ICT活用教育のスパイラルアップ、ログ解析結果とLMSの活用) ・授業参観週間等のAL授業実践、各授業のAL展開事例、LMS上の学修支援教材コンテンツ ・シニアOBと連携した企業技術者イチャリ課題のCBT作成 ・実践技術単位制度の全学展開と学修成果可視化へ向けた活用 ・専門学科のラーニングコンモンスの活用 ・AP事業による講演会の実施、研究発表、ICT環境改善等 これらのAP事業については、報告書に取り纏めるとともに、3月に公開報告会、ポスター発表等が実施され、同時に、事業終了年度を迎え「KOSEN4、Oイノベーション事業(2課題)、グローバル事業などの報告会も行われた。	活動は良好である。 2019年度はAP事業6年目の最終年度として、ALの実践と学修成果の可視化について取り纏めるとともに、第4期における取組の継続、さらなる充実・発展策を検討する必要がある。	熊崎前 教務主事	活動状況は良好である。	A	